



新年にあたり

院長 山崎 元義

令和2年もおだやかに迎えることができました。新しい年を迎えるにあたり、ふりかえってみると小千谷さくら病院も開院して19年が経過し、国立療養所西小千谷病院から受け継いできた建物の老朽化で、建て替えが具体的な現実問題として出てきました。これについては着実に進行しており、2021年秋に開院できるよう検討を進めています。

進行し在宅生活が困難になった神経難病を主体とした医療が、当院のバックボーンであることは今後も変わることはありません。マンネリズムに陥ることなく、日々自分の知識やスキルを磨きあげ、高いレベルの実践と常に新しい発見のある生活であることを期待しています。行政からの要請もあり在宅の神経難病患者の短期入院も、今後は可能な範囲で受け入れる必要があります。

今年も摂食嚥下機能に重点をおいた医療を目指します。栄養問題は大変重要な課題と考えています。誤嚥性肺炎を予防しつつ、食べる楽しみを可能な限りつづけていただくことと、どうやって栄養摂取してもらうか、そのために何ができるかをみんなで考えていきましょう。

ユマニチュードについても少しずつ浸透してきました。さらに技術を学び知識をふやし、あせらず、着実に進めていきたいと思えます。常に心おだやかに冷静に患者さんと向き合ってください。言葉は非常に大事です。留意してください。医療安全と感染対策の面で、プロとしての自覚をもち、安全安心の病院づくりに努力していきたいと考えています。その一環として他病院との交流を通じてよりいっそうのレベルアップを目指していきたいと思えます。

地域に密着し必要とされる病院であるためにどうすればいいか、いつも考えていますが、職員の協力は是非必要です。当院が安定して存続していくために、今までのやりかただけではなく、時代の要請に応じて変えていかなければなりません。

働き方改革はまだ道半ばです。仕事のスタイルを見直し、より家庭生活を大事にするためにも、仕事の効率化を図り、集中して業務をこなし、家族の幸せのために有効に時間を使ってください。新病院では電子カルテが導入される予定ですので、患者さんの記録やモニターのしかたも変わるかと思いますが、現在より業務の効率化が図られることが期待されます。

多くのご家族は複雑な思いを持ちながら、遠い地域から病院に通っていただいています。できれば可能な範囲で、ご家族には今まで通り関わっていただき、ご家族が安心して預けられ、当院に入院できてよかったと思っただけのような医療看護介護が実現できたなら、それこそが私たちの仕事のやりがいではないかと思えます。

今年も職員皆様と共に健康で働くことができることを祈りつつ、初心を忘れることなく、よろしく願いいたします。

小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

病棟の新年の抱負

1 病棟

平成14年から18年間続いた療養病棟ですが、新病院再編に向けあと少しとなりました。建物も老朽化していますが、出来るだけ清潔で明るい療養環境と患者様が安心して生活して頂けるよう、質の高いケアを提供していきたいと思えます。



看護長 小杉 良子

1病棟では、食事や入浴の他に月毎に季節に合わせたレクリエーションを行っています。昨年は、ボランティアの方々によるフラダンス、9月には敬老会にて長寿の表彰や余興などを見て皆様楽しまれていました。その他に、果物などの香りのアロマを焚いて入浴したり、壁画の飾り作り、寝たきりの患者様を中心に天気の良い日には散歩へ出掛けたり、マッサージを行っています。これからも、生活する中で気分転換や楽しみ、より良い生活が送れるよう努力していきたいと思えます。

介護福祉士 風間 麻代

2 病棟

謹んで新年のお慶びを申し上げます

2病棟では昨年、病棟目標に挙げた「ユマニチュード」の実践を目指して、看護研究に取り組みました。そこで、自らの行動を振り返り、改めて実践できるものとして理解を深めることができました。今年は実践の年として、認知症の方だけでなく全患者様に誠意を持って接し、安心安全な療養生活を送っていただけるよう努めていきたいと思えます。



本年も宜しくお願い致します。

看護長 大塚 明美

病院は患者様の入院治療の場ですが、それにとどまらず様々なことを行っています。昨年の取り組みをいくつか紹介させていただきます。10月には2病棟を出火元とする防災避難訓練を消防署職員立ち合いのもと行いました。いざという時に慌てることなく対応し患者様の安全を確保する為、緊張感を持って行いました。12月にはクリスマス音楽会で職員による楽器演奏・歌を患者様の前で披露しました。今後も患者様の安全・安楽な生活と刺激や楽しみのある生活を提供できるよう努めていきます。

介護福祉士 覺張 正樹

3 病棟

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

3病棟では、接遇係が中心となり勉強会やチェックリストを使用し、の振り返りを行いました。今後も継続してスタッフ全員の接遇意識の浸透を図り、今まで以上に心のこもった対応に努めていきたいと思えます。



本年も宜しくお願い致します。

看護長 五十嵐 直子

3病棟では「安全・安心な療養生活を提供」することを目標の1つに掲げています。日々リスク管理について検討や情報共有を行い、怪我や事故を防止できるよう、看護と介護が一丸となって取り組んでおります。また、入院患者様に楽しみを提供できるよう、病棟の小食堂を個々のレク活動や読書、お茶会等楽しむことができる“憩いの場”として開放したり、外の畑スペースを活用した芋掘りや、ひまわりの植ええなどのレクリエーション活動にも力を入れています。今年はさらに患者様個々のやりたいこと・好きなことを行う事が出来るよう、余暇活動を増やしていける関わりに力を入れて取り組んでいきます。

介護福祉士 下村 健

A様とご家族様の心をつなぐために ～リハビリでの一場面から～

入院中のA様は、病前は事務職に就かれ熱心に仕事に打ち込んでこられた方です。最近では車椅子に乗っても、お話をすることが減っていました。先日70歳の誕生日を迎えられ、お祝いの時の様子を奥様から教えていただきました。そこでA様に、奥様へお礼状を書くことを提案しました。



今までのリハビリの様子から、パソコンでの手紙作成を試みました。視線を下に向けづらいため、キーボード入力がしやすくなるよう環境調整をしました。入力方法で戸惑っている時には適宜手助けをし、A様の言葉で書けるよう十分時間をとって関わりました。1日約1時間、計3日間取り組み、表現力豊かで想いの詰まった手紙が完成しました。達成感に溢れた表情が印象深かったです。奥様も、A様の普段見られない様子に触れ大変喜ばれていました。

今回A様の気持ちを橋渡しする機会をいただき、非常に貴重な経験となりました。今後も、会話が円滑に行えない患者様の声を、大切な人に伝えられるよう試行錯誤していきたいと思えます。

作業療法士 武樋 由紀子

最近、ストレスが溜まっていませんか？毎日の暮らしに「早歩きのちょい足し」を

寒いからコタツでごろごろ…そうしなくなってしまうこの頃ですが、実は人間は日々の運動が減るとストレスを感じやすくなっていってしまうのです。冬場、気分が落ち込むのはあなたが畑仕事を止めてしまっているからかもしれません。それではどの程度運動をすれば良いのかというところが気になるころ。

それについてなのですが、2017年の3万人を超えるデータを基にした研究によれば、週に1時間程度の軽い運動をするだけでメンタルの悪化リスクは下がるとのこと。

つまり、1日10分程度の運動をしていただければ、メンタル悪化の予防が出来るということなのです。仕事場でも、買い物の時でも、ちょっといつもより早歩きを心がけることで、あなたの心の健康を守ることが出来るかもしれません（ぶつからない様にしてくださいね）。早歩きでなくても結構です。ストレッチでも、ハードな運動でも結構です。ちなみに、誰か他の人と一緒に運動すると、ストレス軽減効果はさらに高くなりますよ。

理学療法士 内田 真司

新年合同レクリエーション 獅子舞

私は去年の7月、新潟県小千谷市に縁があり東京から来ました。

そんな私が1月8日に患者様の前で「獅子舞」を舞わせて頂きました。獅子舞いなど舞った事などなく、事前に動画等を観て勉強し、本番に挑みました。獅子舞いを舞っている最中は必死で、患者様の様子を拝見する余裕などありませんでした。しかし、舞い終えた後、患者様の笑顔を拝見でき、とても嬉しく感じました。また、後日患者様より、「とても楽しかったわ。あんなに上手に踊れて、どこかでやっていたの？」等のお言葉を頂き、とても嬉しく感じました。

病院で暮らす患者様にとって四季を肌で感じる事は少ないと思います。ですが、喜びの笑顔が溢れていた事により、季節感の薄い病院内でも新年を迎えたという喜びを感じられたのではないのでしょうか。また、患者様の笑顔が私たち職員にとって日々の業務への励みにもなります。とても素晴らしい体験をさせて頂き、どうもありがとうございました。



今後も患者様に楽しんで頂けるよう日々精進いたしますので、どうぞ宜しくお願い致します。

3病棟 介護福祉士 小澤 智人

新人職員の振り返りと来年度へ向けての抱負

4月に入職し約1年が経過します。様々な患者様と接した中で、患者様の状態や症状が病名と結びつかない時があり、その後どのような状態に変わるのかを、予測出来ず危険なサインを察知することが難しく感じることもありましたが、自分の勉強不足であることを自覚した瞬間です。今後は、その都度調べながら様々な事例と比較し、同じような状態に遭遇した時は、その知識を活かせるよう、より多くの気づきができるようになりたいです。



2病棟 看護師 南雲 満里奈

入職して早くも1年が経過しようとしています。最初の頃は覚えなければならない業務がたくさんあり、先輩の後ろをついていくことで精一杯でした。日々、業務を行なう中で分からない事も多く、その都度先輩に質問、メモ、自宅で振り返りを行いました。また、学生時代に学んだ看護知識も実際の現場に出てみると違うことも多くあり、日々勉強の毎日です。夏頃から夜勤も始まり、より一層看護師としての責任の重さ、チームワークの大切さを知る事ができました。今現在、看護師としてまだまだ勉強しなければならない課題が多くあります。日々患者様をよく観察し、異常の早期発見に努めたいです。



3病棟 看護師 熊倉 穂香

感染対策研修会と医療連携

当院では昨年度に引き続き、院内研修の一環として外部講師を招いた研修会を開催しています。

今回は、感染管理活動に対する他病院の取組みから、医療従事者としての対策、院内感染対策に関する職員への教育計画と実施等の状況を紹介いただき、当院が普段から行っている活動を振り返り改善する意味で、有意義な研修会であったと思います。

また、研修会后 当院の感染に携わる職員が、講師で来られた病院に出向きラウンドや療養環境チェックの状況などを見学することが出来たことは、今後の感染に関する委員会活動に大きく影響してくると思われます。

医療の連携が叫ばれている昨今、昨年度から近隣の医療従事者を講師として招き研修会を開催することは、それぞれの医療機関の状況が分かり、地域の医療連携の一端になればと考えています。

今後も外部講師を招き、積極的に研修会を開催し、職員の知識やスキル向上に役立て、高いレベルの医療を提供していきたいと思えます。

事務長 中山 克成

編集後記

新年を迎え、昨年より新元号「令和」や新天皇御即位と新しい時代の幕開けとなりました。今年2020年の夏には、東京オリンピックが開催されます。現地で応援される方や皆様もテレビで観戦する機会もあるかと思えます。今年、スポーツが盛んな年となるのではないのでしょうか。まだ寒い時期が続きますが、選手達に負けぬよう私達も体を動かし風邪や寒さを吹き飛ばしていきましょう。

今年もどうぞよろしくお願ひ致します。(風間 記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地
電話(代表) 0258-83-2680
FAX 0258-83-4416
URL <http://www.sakurahp.com>
E-mail info-01@sakurahp.com
広報委員 中山 克成・風間 麻代・覺張 正樹
下村 健・山崎 厚子・伊佐 純子